

令和7年度 政策評価表

		作成日	令和7年8月27日
リーディングプロジェクト	所沢ブランドの推進とまちの活性化	ゼネラルマネージャー	産業経済部長
未来(あす)を紡ぐミーティング(ATM)メンバー	経営企画部長、市民部長、環境クリーン部長、産業経済部長、所沢駅西口まちづくり担当理事、教育総務部長		
幹事会メンバー	産業経済部次長、企画総務課長、経営企画課長、広報課長、地域づくり推進課長、文化芸術振興課長、みどり自然課長、産業振興課長、商業観光課長、農業振興課長、所沢駅西口区画整理事務所長、スポーツ振興課長、文化財保護担当参事		

【リーディングプロジェクトの方向性】

本市には、狭山湖や狭山丘陵に代表される都市近郊の豊かなみどり、歴史の中で育まれてきた重松流祭囃子などの伝統文化や歴史的建造物、狭山茶・さといもなどの農産物、焼だんごや手打ちうどんといった食文化、「音楽のあるまちづくり」に代表されるモダンな市民文化など、市民が誇りに思う「所沢ブランド」が数多くあります。そして、まちの活性化を図るためには、こうした他市にも誇れる本市の魅力を十分に活かしていくことが必要です。

本市では、東京2020オリンピック・パラリンピックの開催時期に合わせ、東所沢に新たな文化の拠点となる「ところざわサクラタウン」が開設するとともに、西武ドーム球場周辺のボールパーク化が計画されるなど、今後、国内外から多くの観光客が本市に訪れることが見込まれています。

国内はもとより、海外にまで本市の魅力を伝えることができるこうした機会を捉え、インバウンドに対応した多言語表示や通信環境整備といった基盤整備をはじめ、地元商店や地域における観光客受け入れに備えた取り組みなどを推進し、観光を軸とした魅力とにぎわいの創出のため、豊かなみどりと文化の魅力を伝える「所沢ブランド」を発信します。

【令和6年度に実施した事業】

◀「主な取り組み」にあたる事業▶

5-3-1 にぎわい拠点の創出・活性化（新規・既存の観光拠点整備・充実）	
「まち」×「みどり」のおさんぽコース道標等整備事業	商業観光課
にぎわいトコロ創出支援事業	商業観光課
「所沢市観光情報・物産館」活用事業（COOL JAPAN FOREST 構想事業）	商業観光課
5-3-3 観光を軸としたブランド化の推進（地域製品のブランド化の推進）	
2025年大阪・関西万博お茶が織りなす日本文化展事業	農業振興課
所沢ブランド特産品推進事業	産業振興課
ブランド価値の向上事業	商業観光課
5-3-4 観光客誘致の強化（地域におけるインバウンド受け入れ体制の構築）	
インバウンド戦略推進事業（COOL JAPAN FOREST 構想事業）	商業観光課
効果的な観光客誘致プロモーションの推進事業	商業観光課

5-6-1 個性あふれる文化の創造 (市民主体の多彩な文化・芸術活動の促進、市民文化センターの運営)	
「所沢駅アート展」開催事業	文化芸術振興課
音楽のあるまちづくり推進事業	文化芸術振興課
市民文化センター管理運営事業	文化芸術振興課
5-6-2 文化財の保護・活用(滝の城跡等の文化財の活用)	
歴史的建造物整備活用事業	文化財保護課
滝の城跡整備事業	文化財保護課
文化財公開活用事業	文化財保護課

《「関連する取り組み」にあたる事業》

4-2-3 みどりと水の保全 (「水とみどりがつくるネットワーク」の構築、狭山湖周辺の魅力創出)	
里山保全地域等指定整備事業	みどり自然課
水田景観保全事業	みどり自然課
6-2-1 所沢駅周辺のにぎわいのあるまちづくりの推進(所沢駅西口再開発・区画整理事業)	
所沢駅ふれあい通り線道路築造事業(1工区)	所沢駅西口区画整理事務所
所沢駅西口地区まちづくり事業	所沢駅西口区画整理事務所
所沢駅西口土地区画整理事業	所沢駅西口区画整理事務所
7-4-3 地域の総合力の向上(地域の魅力を都市ブランドとして発信、COOL JAPAN FOREST 構想の推進)	
所沢 Mix カルチャーフェスタ開催事業	経営企画課
COOL JAPAN FOREST 構想推進事業	経営企画課
ダイアプラン推進事業	経営企画課

【評価及び今後の方針】

令和6年度の取り組みに対する評価
<p>●にぎわい拠点の創出・活性化(新規・既存の観光拠点整備・充実)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内を歩きやすく、また、歩きたくなるようにするために、まちのにぎわいと美しく豊かなみどりを巡る「まち」×「みどり」のおさんぽコース10選のうち「砂川堀せせらぎおさんぽコース」の道標を新設したほか、「狭山湖とトトロの森おさんぽコース」、「八国山おさんぽコース」の道標及び観光案内板を更新した。 ・にぎわい拠点の創出、活性化に向けて、市内団体に対して、にぎわいトコロ創出支援事業補助金を交付し、各事業の取り組みを支援した。新規の取り組みもあり、昨年度と比べてにぎわい拠点のある地域も広がった。(令和6年度は9件の交付申請があった。) ・ところざわまつり当日に合わせ、パリ2024オリンピック・パラリンピックに出場した、所沢市にゆかりのある選手の凱旋パレードと凱旋報告会を行い、市民が選手と触れ合う機会を作った。 ・令和6年10月26日・27日に開催した「第45回所沢市民フェスティバル」では、天候の影響はあったものの市内外から2日間で約23万人の来場があった。所沢ブランド特産品を扱う店舗や観光協会等を中心に市内の405企業・団体が出展した。産業分野以外にも福祉や環境、水道、地域コミュニティ等市内からも様々な所属が参加し、所沢ブランドを中心に「所沢の今」を市内外に広くPRする場となった。また、開催運営に伴い、市内高校生・大学生に当日ボランティアとして協力を得

たこともあり、市民・事業者・学生・行政が世代を超えて関わるコミュニティ醸成が図られた。

- ・ 「所沢市観光情報・物産館 YOT-TOKO」においては、本市の観光情報の提供や特産物の PR・販売等を行うことで、魅力発信拠点としての役割を引き続き果たすとともに、YOT-TOKO 文化祭のほか、様々なイベントを開催することで、にぎわい拠点の創出・活性化を図った。(令和 6 年度の来館者数(推計)は約 227,000 人)

また、埼玉県「水辺 de ベンチャーチャレンジ」の活用により、施設に隣接する東川沿いに張り出しデッキを設置することで、新たなにぎわい拠点の創出を目指し、地域住民等を委員とした協議会において、令和 8 年度の完成を目指し、事業計画の策定に向けた検討を進めた。

●観光を軸としたブランド化の推進（地域産品のブランド化の推進）

- ・ 大阪・関西万博自治体参加催事「LOCAL JAPAN 展 (Tea Journey～日本茶の文化と風味を楽しむ～)」実行委員会を設立し、展示ブースのデザインや出展内容を決定した。
 - ・ 大阪・関西万博にかかる市内の機運醸成として、職員向けの万博ストラップを製作した。また、「推しの茶～日本茶テイastingイベント～」万博プレイベントを茶業者や所沢北高校茶道部と共に市民ホールで開催し、約 600 人の来場があった。
 - ・ 大阪・関西万博において、世界農業遺産武蔵野の落ち葉堆肥農法を PR するステージ発表へ、当該推進協議会としての参加が新たに決定した。
 - ・ HARUMI FLAG マルシェ（中央区晴海）、お寺 de マルシェ（飯能市）、日本橋イベントスペース（中央区日本橋）など新たなイベントのほか、茅ヶ崎フェスティバル（茅ヶ崎市）や上田市紅葉まつり（上田市）、ところざわサクラタウンでの喫茶来などに出展し、所沢産狭山茶の普及啓発を行った。
 - ・ 上田市と連携した林檎和紅茶の開発や、ミュージ併設のレストランにて水出し冷茶と和紅茶の取扱いを開始するなど、販路拡大を支援した。
 - ・ 市内にある 46 の茶園・茶屋の特徴と所在地を狭山茶の知識と共に紹介した小冊子を作成し、市内外での配布を開始した。
 - ・ 所沢らしさを追求した魅力ある逸品「所沢ブランド特産品」の第 7 回認定審査会を実施し、3 品を新たに選定した。販路支援においては、所沢ブランド特産品の特設 WEB サイトにて特産品（42 品）及び開発者の紹介を行うとともに、広報ところざわや SNS (Instagram) を活用した特産品紹介を行い、認知度向上に努めた。また、所沢市民フェスティバルや日本橋イベントスペースへブース出展するなど、イベント参加による特産品の販路支援や PR 活動を行った。
 - ・ 広報ところざわの連載記事やコミュニティビジョンを活用し、所沢ブランド特産品を紹介した。
 - ・ 本市のブランド価値を高め、ふるさと所沢への愛着の醸成を図るため、所沢を本拠地とするプロスポーツチームである「埼玉西武ライオンズ」、「さいたまブロンコス」との連携を推進した。両チームをきっかけに本市を訪れる人も多く、観光資源としての役割を果たしている。
- 令和 6 年度には、埼玉西武ライオンズとはフレンドリーシティ感謝デーへの出展をはじめ、小学生を対象としたベースボールチャレンジなど様々な事業を協働で実施している。また、さいたまブロンコスとは、ホームゲーム開催時に、小中学生を対象とした無料招待やブロンコスマルシェ（キッチンカー出店、観光ガイド配布、ミニバスケットゴールを使ったシュートチャレンジ）などを実施した。

●観光客誘致の強化（地域におけるインバウンド受け入れ体制の構築）

- ・ インバウンド戦略推進事業では、旅マエ（インバウンドマーケティングのフレームワークにおける3つのフェーズ「旅マエ」「旅ナカ」「旅アト」の1つ。訪日旅行を計画・検討する段階のこと。）の промоーションとして、埼玉県物産観光協会の「埼玉県インバウンド有力コンテンツ」事業を活用した台湾、タイ、韓国等のFAM ツアーの招聘や、SNS を活用した情報発信を行い、外国人観光客を誘致するとともに、旅ナカ（同上。実際に日本に滞在し、観光や体験を楽しむ段階のこと。）のサービスとして、多言語版観光パンフレットを配布し、訪日外国人の受入体制整備を行った。
- ・ 「所沢市観光情報・物産館（YOT-TOKO）」において、本市の魅力的な観光資源を発信するとともに、多言語に対応した観光パンフレットを提供する等、外国人観光客向けに充実した対応を図った。
- ・ 所沢市観光大使を新たに3名選任し、効果的な観光客誘致プロモーションの推進を図った。

●個性あふれる文化の創造（市民主体の多彩な文化・芸術活動の促進、市民文化センターの運営）

- ・ 市民の文化芸術への関心を高めるほか、市民の作品発表の機会を作ることで創作活動を支援することを目的として、所沢駅構内において、公募による絵画作品を展示する展覧会を開催した。
- ・ まちなかで、ふとしたときに音楽を楽しむことができる「まちなかコンサート」をメインに、親子などで気軽にクラシック音楽に触れる機会を創出する「音まちファミリーコンサート」、小中学生のロック体験を後押しする「音まち青春 ROCK」など、音楽的な嗜好や年代に関わらず、誰もが音楽を楽しめる環境づくりを行った。
- ・ 市民文化センターミュージズは、メンバーズ会員数及び自主事業におけるチケット収入が過去最高となるなど、文化芸術の振興に寄与した。

●文化財の保護・活用（滝の城跡等の文化財の活用）

- ・ 市域に所在する文化財の保存と活用に関する総合的な計画として「所沢市文化財保存活用地域計画」の作成を進めた。
- ・ 歴史的建造物整備活用事業では、国登録有形文化財「秋田家住宅」及び敷地全体の整備を進めるために必要となる関係法令の条件整理などを進めた。
- ・ 滝の城跡整備事業では、「滝の城跡整備検討委員会」を開催し、これまで行った発掘調査の成果及び文献史料による研究の双方から「滝の城跡」の歴史的な位置づけなどの再検討を行った。
- ・ 文化財公開活用事業では、「所沢市文化財展」の開催や国登録有形文化財「秋田家住宅」などの公開により、市民が文化財に親しむ機会を設けるとともに、広報紙発行を通じて文化財調査成果の情報発信を進めた。また、「所沢文化財展」においては、西武鉄道株が主催する「川越鉄道開業 130 周年記念写真展」と連携することにより、所沢駅での事業周知も行った。
- ・ 資料研究の成果を踏まえて、国登録有形文化財「旭橋」の失われた電灯復元に着手した。また、「航空発祥の地」に関連する鈴木家の資料整理及び文化財指定の審議を進めた。

●みどりと水の保全（「水とみどりがつくるネットワーク」の構築、狭山湖周辺の魅力創出）

- ・ 都市近郊に残された数少ない里山の原風景を保全するため、所沢市みどりの基本計画に基づき、三ヶ島一丁目里山保全地域を新たに指定（2.64ha）したほか、3か所の里山保全地域の指定拡大（合計0.46ha）を行った。
- ・ 上山口堀口天満天神社周辺里山保全地域内に残されている貴重な水田景観を保全するため、水田6筆について地権者と貸借契約を結び、地域団体との協働により耕作及び管理を実施した。

●所沢駅周辺のにぎわいのあるまちづくりの推進（所沢駅西口再開発・区画整理事業）

- ・ 「所沢駅ふれあい通り線」における鉄道敷地内の工事を進めた。
- ・ 所沢駅周辺のにぎわいの創出を図るため、歩行者が安心・安全に通行できる道路の整備や電線地中化を進めるとともに、エミテラス所沢の開業に伴い周辺交通渋滞対策を開発事業者と供に行った。
- ・ エミテラス所沢に隣接する1号公園の整備を行い、令和6年9月に供用開始した。
- ・ 所沢駅周辺の回遊性の向上を目的とした歩行者デッキの整備を行い、令和6年9月に供用開始した。

●地域の総合力の向上（地域の魅力を都市ブランドとして発信、COOL JAPAN FOREST 構想の推進）

- ・ ところざわサクラタウンで開催された「武蔵野回廊文化祭」において「所沢 Mix カルチャーフェスタ」を併催することで、市民のみならず、若者を中心に市外・県外の多くの方に市のPRを行った。
- ・ COOL JAPAN FOREST 構想は現在「成果創出期」にあり、本構想は概ね順調に推移している。開智所沢小学校・中等教育学校が令和6年4月に開校し、「知の集積エリア」として地域のブランド力を強化した。そのほか（株）KADOKAWA が主催する様々なイベント等において市の後援名義を使用するなど、（株）KADOKAWA と市の連携を図った。
- ・ 埼玉県西部地域まちづくり協議会（ダイアプラン）では、5市合同により静岡県島田市を視察し、島田市だけでなく、地元のJAや鉄道事業者等が連携して整備・運営する「KADODE OOIGAWA」を中心とした官民連携による地域活性化の様々な取り組みや、特産品の緑茶を活用したシティープロモーションについて学ぶことができた。
- ・ 所沢シティマラソン大会は第35回大会を迎えたため、記念大会として開催した。全国から5,249名のエントリーがあり、参加者に本市の自然豊かな魅力をPRするとともに、YouTubeで全国にライブ配信する取り組みを行った。会場では地元の店舗からなる物産展を開催した。

【総評】

令和6年度は、エミテラス所沢の開業や開智所沢小学校・中等教育学校が開校され、地域の魅力となる拠点が新たに創出される中、「所沢ブランドの推進とまちの活性化」の実現に向けて、様々な取り組みが実施された。

「ところざわまつり」や「市民フェスティバル」、「所沢市シティマラソン」など長く市民に親しまれているイベントの開催に加え、新たに所沢市観光大使3名の選任や、「埼玉西武ライオンズ」、「さいたまブロンコス」との連携、本市の特産品である狭山茶をPRするための「2025大阪・関西万博」出展に向けた準備・イベント開催など、所沢ブランドの魅力発信に、一定の効果があつたと考える。

また、「音楽のあるまちづくり」の推進や「所沢駅アート展」の開催、所沢市文化財保存活用地域計画の準備など、文化芸術や歴史的な文化財を活用した取り組み、里山保全地域の指定拡大や所沢駅周辺の整備、（株）KADOKAWA との連携など、豊かなみどりと文化の魅力を伝える「所沢ブランド」の魅力を一層高める多様な取り組みが着実に進められた。

こうしたことから、「所沢ブランドの推進とまちの活性化」の実現に向けて、各事業、順調に進捗しているものとして評価する。

今後の方針：所沢の魅力を高めるまちづくりに向けて

●地域を牽引する事業者等への支援

- ・ 市内事業者の連携した新製品開発や技術開発、販路開拓等の取り組みを支援し、地域産業への波及効果をもたらすことで地域経済の活性化を図る。
- ・ ニーズの高い設備投資や運転資金の資金調達の円滑化を促進し、市内事業者の経営基盤の強化を図る。
- ・ 競争力のある技術やサービスを提供している事業者等に対して、関係機関と連携して専門的な相談体制を充実させるなど、積極的・集中的に支援していく。
- ・ ふるさと応援寄附を推進することで、地域の産業振興を図り、全国に向けて市の魅力を発信する。

●にぎわい拠点の創出・活性化

- ・ 所沢市観光情報・物産館（YOT-TOKO）と連携した、にぎわい拠点の充実を図る。また、隣接する東川沿いへの張り出しデッキの設置に向けた調整を図り、併せて、設置後の利用方法についても、協議会等で検討を進める。
- ・ 今後も時機を捉えて、広報とところざわ、市ホームページ、SNSなどで市の魅力発信に努めていく。
- ・ 市民フェスティバルの開催にあたっては、引き続き安全に開催するとともに、市民有志の実行委員会等との協働により、来場者がより「所沢の今」を体感・体験できる場となるように検討していく。

●観光を軸としたブランド化の推進

- ・ 所沢ブランド特産品については、魅力ある新たな商品の認定と並行して、認知度向上のため積極的な情報発信と販路支援を行っていく。
- ・ 本市を本拠地とするプロスポーツチームと連携し、観光資源として活用するとともに、市民がふるさと所沢への愛着や誇りを醸成する取り組みを進めていく。
- ・ 「航空発祥の地 所沢」をPRするイベントの開催に向け準備を進める。
- ・ 大阪・関西万博への出展や武蔵野の落ち葉堆肥農法の世界遺産登録の成果を十分に活用し、所沢産農産物のブランド化を推進する。

●農のあるまちづくりの推進

- ・ 世界農業遺産武蔵野の落ち葉堆肥農法や環境再生型農業への取組など、本市ならではの農業資源を活かし、狭山茶やさといも、にんじんなどの所沢産農産物をイベントなどでPRしていく。
- ・ 体験農場や親子収穫体験など農作業体験を通じて生産者と消費者の相互理解を図るとともに、学校給食での所沢産農作物の使用や直売所支援により地産地消を推進していく。

●観光客誘致・受入体制の強化

- ・ 外国人観光客誘致のため、海外に向けた情報発信を進めるとともに、本市を訪れる外国人観光客の市内回遊性の向上や観光スポットの多言語化など受入体制の整備を進める。
- ・ 所沢市観光大使と連携し、効果的な観光客誘致プロモーションを推進する。
- ・ 所沢市の魅力を発信するための観光案内を作成し、効果的な観光客誘致プロモーションを推進する。

●個性あふれる文化の創造

- ・ 「音楽のあるまちづくり」関連事業やアートに関する事業を推進し、市民が多様な文化芸術に触れる機会を創出し、文化の薫り高い施策を進めていく。
- ・ 市民文化センターミュージズについては、開館から 30 年余りが経過したが、引き続き本市における文化の殿堂としての機能を果たせるよう、次期改修に向けた準備を進めていく。

●文化財の調査・保存・活用

- ・ 先人たちの営みとともに長い年月受け継がれてきた歴史的財産である文化財や市域に伝わる民俗芸能の保存に努めるとともに、歴史的建造物など文化財を活用することにより、その魅力を発信することで歴史文化や郷土を大切に作る心を育み、本市の歴史文化を未来へ継承していく。

●生物多様性への理解と参加の推進

- ・ 生物多様性は「気候変動」とならんで国際的な大きな課題ととらえ、イベントや講座などを通じて市民、団体、企業の皆さんに多種多様な生きものにぎわう環境作りに参加していただくように周知・啓発を図り、人々と生きものが共に生きるよきふるさとになるよう努めていく。

●みどりと水の保全

- ・ みどりと水の保全に関しては、引き続き、里山保全地域などの地域制緑地の指定等により保全した樹林地を適切に管理し、本市の豊かなみどりを身近に感じられるよう散策路等の安全確保を図る。

●所沢駅周辺のにぎわいのあるまちづくりの推進

- ・ 所沢駅周辺のにぎわいの創出を図るため、歩行者が安心・安全に通行できる道路の整備や電線地中化を進める。
- ・ 所沢駅周辺の回遊性の向上を目指し、所沢駅～ワルツ所沢間の歩行者デッキへの屋根の設置について検討を進める。
- ・ 所沢駅東西市街地の一体化や駅周辺の交通渋滞の緩和を目的とした、「所沢駅ふれあい通り線」の早期開通を目指し整備を進める。

●地域の総合力の向上

- ・ 所沢Mixカルチャーフェスタに新しい内容を取り入れながら開催することで、所沢の魅力創出・PRを図る。
- ・ COOL JAPAN FOREST 構想において、「未来への飛翔期」に向けて分野横断的な連携を検討することで、「みどり・文化・産業が調和したまち」「住んでみたい・訪れてみたいまち」の実現を図る。
- ・ ダイアプランにおいて、地球温暖化対策を推進する事業や観光誘客キャンペーンに積極的に取り組み、本圏域のブランド力の向上を図る。
- ・ 日本代表として世界を舞台に活躍しているアスリートを所沢市ゆかりのアスリートに認定し、オリンピック・パラリンピックをはじめ、各種大会への出場や成績について SNS などを活用して積極的に情報発信することで、所沢市を世界に PR する。さらに、狭山丘陵に位置するベルーナドームを会場とした所沢シティマラソン大会に加え、早稲田大学 所沢キャンパスを会場とした陸上競技大会や水泳大会を開催することで、本市の自然豊かな魅力を PR する。

【SDGs への貢献】

- 1 貧困をなくそう
- 2 飢餓をゼロに
- 3 すべての人に健康と福祉を
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を実現しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤を作ろう

- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任 つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさも守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナーシップで目標を達成しよう